



姉妹で日本代表を目指す(右から)志賀葵と紅音

アイスホッケー代表候補 志賀葵・紅音姉妹

平昌目指し切磋琢磨

ともにDF 「一番の味方でライバル」

【苫小牧】苫小牧市の白鳥王子アイスアリーナで行われている女子アイスホッケーの平昌五輪代表候補合宿(14～20日)で、帯広レディースの志賀葵(18)と、帯三条高3年2と、妹の紅音(16)は同2年2が奮闘している。姉妹での大舞台での出場を目標に全力を尽くしている。

(北雅貴、金野和彦)

葵は稲田小2年時に校庭に造られたアイスホッケーのリンクに興味を持ち競技を始めた。2年前の6月に

初めて日本代表合宿に招集。雲の上の存在だった」と言う選手たちとのプレーにも慣れてきた。

五輪最終予選があった昨季も合宿に呼ばれ続けたが最後に落選。2月の本番ではリザーブに回った。五輪が決まった瞬間はベンチ近くで見ている。「うれしい気持ちとメンバーに入れなかった悔しさが半々だった。1番打者で遊撃手だった帯三条高ソフトボール部を引退した6月からは筋力トレーニングに励んだ。

代表でも帯広レディースでの練習でも視野の広さを意識して取り組む。元日本代表でDFだった山中武司監督(46)も「スティックワークが非常に上手で、FWへのパス出しの技術が高い」と評価している。

代表候補で最年少の紅音は葵と一緒にアイスホッケーを始めた。物おじしない強気な性格だ。それでも2年前の初代表時も昨季の合宿でも、シュート力や前線への突破などの持ち味を発揮できず、コミュニケーションでも苦労した。しかし、くじ引きで座席が決まる食事などで先輩らと話をし、現在は伸び伸びと気持ち

ちを前面に出すプレーが復る」と信頼する。

ポシヨンは共にDF。紅音は「一緒に選ばれたら一番良いが簡単なものではない」、葵も「一番の味方で一番身近なライバル」と火花を散らしながらも「どちらかが行けなくても、頑張つてきなよと激励することになると思います」と笑う。

姉と同じ高校に進学、同じソフトボール部に入部した。アイスホッケーでも自分の気付かない悪いところを言ってくれる。試合の振り返りも一緒にして助か

代表でも帯広レディースでの練習でも視野の広さを意識して取り組む。元日本代表でDFだった山中武司監督(46)も「スティックワークが非常に上手で、FWへのパス出しの技術が高い」と評価している。

代表候補で最年少の紅音は葵と一緒にアイスホッケーを始めた。物おじしない強気な性格だ。それでも2年前の初代表時も昨季の合宿でも、シュート力や前線への突破などの持ち味を発揮できず、コミュニケーションでも苦労した。しかし、くじ引きで座席が決まる食事などで先輩らと話をし、現在は伸び伸びと気持ち